

【企業動向調査（製造業）概況】

2021年1月～3月期の企業動向調査（市内製造業99社）を行った結果、業況判断指数D Iの平均は**3.8**ポイントとなりました。

前期調査結果（2020年10月～12月期：**15.6**ポイント）と比較して**11.8**ポイント悪化しました。自社の景況感については、「変わらない」とした企業が41.3%、「好転している」21.3%、「今後、悪化が見込まれる」16.3%、「今後、好転が見込まれる」13.8%、「悪化している」7.5%となっています。デジタルトランスフォーメーション（DX）、またはカーボンニュートラル（脱炭素社会）に対し、具体的にどのような対応を行っていますかについては、「テレワーク、WEB会議、労務管理など。使用エネルギーの削減、再生可能エネ市場への販促」、「タブレットによる出庫業務により、ペーパーレス化と効率化を実施」、「エコアクション21やSDGs等の活動を通じてCO2排出量削減に取り組んでいる」、「太陽光発電・熱の活用」等の意見がありました。経営上の問題は、「半導体部品以外にも樹脂や非鉄金属など入手困難になってきている材料もあるようなので、リスクの連鎖を心配している」、「コロナ禍で飲食店などの閉店により受注数が減少し、改善の兆しが見えない状況で不安はある」、「仕事はあるが、人がいない状況」などの意見がありました。

1. 今期調査結果は、「一般機械」、「木材家具」がプラスポイント、「電気機械」、「その他業種」が0ポイント、「食品」、「金属」はマイナスポイントとなりました。

業種別の業況判断前期比D I

食品	▲ 66.7	（前期比：マイナス	96.7）
金属	▲ 5.6	（前期比：マイナス	40.9）
一般機械	50.0	（前期比：プラス	35.7）
電気機械	0.0	（前期比：マイナス	28.6）
木材家具	33.3	（前期比：プラス	16.6）
その他業種	0.0	（前期比：マイナス	25.0）

2. 次期予想D I（2021年4月～6月）

次期予想の平均は▲**10.1**ポイントで、今期調査結果の平均(**3.8**)より、13.9ポイント下回る予想となりました。

業種別の次期予想D I

食品	▲ 11.1	（今期比：プラス	55.6）
金属	▲ 11.1	（今期比：マイナス	5.5）
一般機械	25.0	（今期比：マイナス	25.0）
電気機械	▲ 7.1	（今期比：マイナス	7.1）
木材家具	▲ 66.7	（今期比：マイナス	100.0）
その他業種	▲ 25.0	（今期比：マイナス	25.0）

3. 経営上の主な問題点

「原材料・仕入品単価の上昇」が55.0%、「人材不足（技術者等質的なもの）」が50.0%、「受注の減少」が41.3%、「労働力不足（量的なもの）」が26.3%、「納期の短縮」が18.8%、「同業他社との競争激化」が16.3%、「技術力の不足」が13.8%、「製品販売価格の低下」が11.3%、「人員過剰」が6.3%、「金融難」が3.8%、「取引先の海外シフト化」と「為替相場の変動」が2.5%となっております。

企業動向調査

【2021年1月～3月期<1期>】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施しており、今回は2021年1月～3月期<1期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2021年4月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業 99社

回答企業数 80社（回答率 80%）

【調査結果】

自社業況判断（D I＝好転－悪化）

前期比：「**好転**」26.3%（前回40.3%）、「**悪化**」22.5%（前回24.7%）という割合でD Iは3.8となり、11.8ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」25.3%（前回28.6%）、「**悪化**」36.7%（前回48.1%）という割合でD Iは▲11.4となり、8.1ポイント好転した。

次期予想：「**好転**」16.5%、「**悪化**」26.6%という割合でD Iは▲10.1（前回▲27.0）となり、前期より好転を予想している。

受注引合（D I＝増加－減少）

前期比：「**増加**」27.5%（前回39.5%）、「**減少**」26.3%（前回27.6%）という割合でD Iは1.2となり、10.7ポイント減少した。

前年同期比：「**増加**」27.5%（前回25.0%）、「**減少**」33.8%（前回47.4%）という割合でD Iは▲6.3となり、16.1ポイント増加した。

次期予想：「**増加**」16.5%、「**減少**」32.9%という割合でD Iは▲16.4（前回▲26.3）となり前期より増加を予想している。

生産量（D I＝増加－減少）

前期比：「**増加**」25.3%（前回38.2%）、「**減少**」19.0%（前回25.0%）という割合でD Iは6.3となり、6.9ポイント減少した。

前年同期比：「**増加**」29.1%（前回30.3%）、「**減少**」35.4%（前回48.7%）という割合でD Iは▲6.3となり、12.1ポイント増加した。

次期予想：「**増加**」21.5%、「**減少**」27.8%という割合でD Iは▲6.3（前回▲25.0）となり、前期より増加を予想している。

原材料・仕入品単価 (D I = 低下－上昇)

前 期 比：「低下」2.6% (前回 1.3%)、「上昇」36.4% (前回 11.8%) という割合で D I は▲ 33.8 となり、23.3 ポイント上昇した。

前年同期比：「低下」2.6% (前回 1.3%)、「上昇」44.2% (前回 21.1%) という割合で D I は▲ 41.6 となり、21.8 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「低下」1.3%、「上昇」62.3%という割合で D I は▲ 61.0 (前回▲ 26.3) となり、前期より原材料・仕入単価の上昇を予想している。

製品販売価格 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」1.3% (前回 1.3%)、「低下」6.3% (前回 5.3%) という割合で D I は▲ 5.0 となり、1.0 ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」5.1% (前回 4.0%)、「低下」8.9% (前回 9.3%) という割合で D I は▲ 3.8 となり、1.5 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「上昇」6.3%、「低下」8.9%という割合で D I は▲ 2.6 (前回▲ 8.0) となり、前期より製品販売価格の上昇を予想している。

資 金 繰 り (D I = 好転－悪化)

前 期 比：「好転」11.4% (前回 10.5%)、「悪化」16.5% (前回 21.1%) という割合で D I は▲ 5.1 となり、5.5 ポイント好転した。

前年同期比：「好転」12.7% (前回 9.2%)、「悪化」25.3% (前回 34.2%) という割合で D I は▲ 12.6 となり、12.4 ポイント好転した。

次 期 予 想：「好転」5.1%、「悪化」15.2%という割合で D I は▲ 10.1 (前回▲ 17.1) となり、前期より資金繰りの好転を予想している。

所定外労働時間 (D I = 増加－減少)

前 期 比：「増加」20.3% (前回 22.1%)、「減少」15.2% (前回 24.7%) という割合で D I は 5.1 となり、7.7 ポイント増加した。

前年同期比：「増加」20.3% (前回 18.2%)、「減少」24.1% (前回 39.0%) という割合で D I は▲ 3.8 となり 17.0 ポイント増加した。

次 期 予 想：「増加」20.3%、「減少」22.8%という割合で D I は▲ 2.5 (前回▲ 14.3) となり 前期より労働時間の増加を予想している。

収 益 率 (D I = 上昇－低下)

前 期 比：「上昇」11.3% (前回 26.0%)、「低下」22.5% (前回 31.2%) という割合で D I は▲ 11.2 となり、6.0 ポイント低下した。

前年同期比：「上昇」18.8% (前回 20.8%)、「低下」35.0% (前回 42.9%) という割合で D I は▲ 16.2 となり、5.9 ポイント上昇した。

次 期 予 想：「上昇」12.5%、「低下」32.5%という割合で D I は▲ 20.0 (前回▲ 22.1) となり、前期より若干の収益率の上昇を予想している。

経営上の問題点（複数回答）

1位	原材料・仕入品単価の上昇	(↑ 55.0%)
2位	人材不足（技術者等質的なもの）	(→ 50.0%)
3位	受注の減少	(↓ 41.3%)
4位	労働力不足（量的なもの）	(↑ 26.3%)
5位	納期の短縮	(↓ 18.8%)
6位	同業他社との競争激化	(↓ 16.3%)
7位	技術力の不足	(→ 13.8%)
8位	製品販売価格の低下	(→ 11.3%)
9位	人員過剰	(↑ 6.3%)
10位	金融難	(↓ 3.8%)
11位	取引先の海外シフト化	(↓ 2.5%)
11位	為替相場の変動	(↑ 2.5%)

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断／食 品

前 期 比：「**好転**」0.0%（前回60.0%）、「**悪化**」66.7%（前回30.0%）という割合で
D Iは▲66.7となり、96.7ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」11.1%（前回30.0%）、「**悪化**」66.7%（前回60.0%）という割合で
D Iは▲55.6となり、25.6ポイント悪化した。

次 期 予 想：「**好転**」0.0%、「**悪化**」11.1%という割合でD Iは▲11.1（前回▲50.0）となり
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／金属機械

前 期 比：「**好転**」22.2%（前回52.9%）、「**悪化**」27.8%（前回17.6%）という割合で
D Iは▲5.6となり40.9ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」22.2%（前回35.3%）、「**悪化**」38.9%（前回47.1%）という割合で
D Iは▲16.7となり、4.9ポイント悪化した。

次 期 予 想：「**好転**」11.1%、「**悪化**」22.2%という割合でD Iは▲11.1（前回▲13.4）となり、
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／一般機械

前 期 比：「**好転**」56.3%（前回42.9%）、「**悪化**」6.3%（前回28.6%）という割合で
D Iは50.0となり、35.7ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」37.5%（前回21.4%）、「**悪化**」12.5%（前回50.0%）という割合で
D Iは25.0となり53.6ポイント好転した。

次 期 予 想：「**好転**」43.8%、「**悪化**」18.8%という割合でD Iは25.0（前回▲7.2）となり
前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／電気機械

前期比：「**好転**」21.4%（前回42.9%）、「**悪化**」21.4%（前回14.3%）という割合でDIは0.0となり、28.6ポイント悪化した。

前年同期比：「**好転**」35.7%（前回50.0%）、「**悪化**」35.7%（前回28.6%）という割合でDIは0.0となり、21.4ポイント悪化した。

次期予想：「**好転**」14.3%、「**悪化**」21.4%という割合でDIは▲7.1（前回▲28.6）となり前期より好転を予想している。

業種別自社業況判断／木材家具

前期比：「**好転**」50.0%（前回50.0%）、「**悪化**」16.7%（前回33.3%）という割合でDIは33.3となり、16.6ポイント好転した。

前年同期比：「**好転**」33.3%（前回50.0%）、「**悪化**」50.0%（前回50.0%）という割合でDIは▲16.7となり、16.7ポイント悪化した。

次期予想：「**好転**」0.0%、「**悪化**」66.7%という割合でDIは▲66.7（前回▲40.0）となり、前期より悪化を予想している。

Q10 （1）日銀松本支店が4月1日に発表した、企業短期経済観測調査（短観）によると、全産業の業況判断指数（DI）は、マイナス8で前回調査（12月）から18ポイント上昇し、ほぼ新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで回復したと報じられました。（製造業はプラス2、前回調査32ポイント上昇）自社の景況感をどのように感じておられますか。

A 「変わらない」41.3%、「好転している」21.3%、「今はないが、今後悪化が見込まれる」16.3%、「今はないが、今後好転が見込まれる」13.8%、「悪化している」7.5%。

Q10 （2）（1）で「好転している」、または「悪化している」と答えた方にお伺いします。具体的な影響についてご記入ください。

A 「半導体関連装置部品、自動車部品関連が好調の為。」「半導体関連の需要が伸びていました。五月に入り一休み的な感じですか。」「5G通信基盤関係部品の加工については、いまのところ順調な推移をしている。」「新型コロナの影響を受ける土産物、飲食店向け製品は弱含みであるが、スーパー、コンビニ向けはじめ、その他は受注が拡大している。」「既存顧客からの新規受注が見込めるため。」「受注環境が好転してきているが、まだコロナ前までは達していない。」「生産が部材の調達難で今後納期に間に合わない可能性がある。なおかつ、受注も上期は減少が見込まれている。」「車載関係の受注に

加え、5G関係の受注が増加。プレス部品の受注も増加。」「中国経済の回復。」「受注量の減少、材料価格高騰。」「好転しているが、今後に不安が残る。」「コロナで飲食店の売上減少。」「コロナウイルスの影響で止まっていた仕事が動き始めている。」「コロナで営業活動に制限がある。」「工作機械業界をはじめ生産設備製造業全体的に回復していると感じる。」「半導体産業の盛り上がりで忙しくはなっているが、当社の強みである航空機向け製造装置の動きがコロナ以前と比べ1/10と鈍く先行きの不透明感がある。」「コロナ特別貸付等で支払い圧縮出来ているため感覚が薄い。」「通常貸付であれば厳しい状況。若干なり不景気慣れがある。」等。

Q11 (1)デジタルトランスフォーメーション(DX)、またはカーボンニュートラル(脱炭素社会)の対応をしていますか。

A 「対応していない」57.5%、「これから対応する予定」25.0%、「デジタルトランスフォーメーションのみ」、「カーボンニュートラルのみ」、「無回答」5.0%、「両方対応している」2.5%。

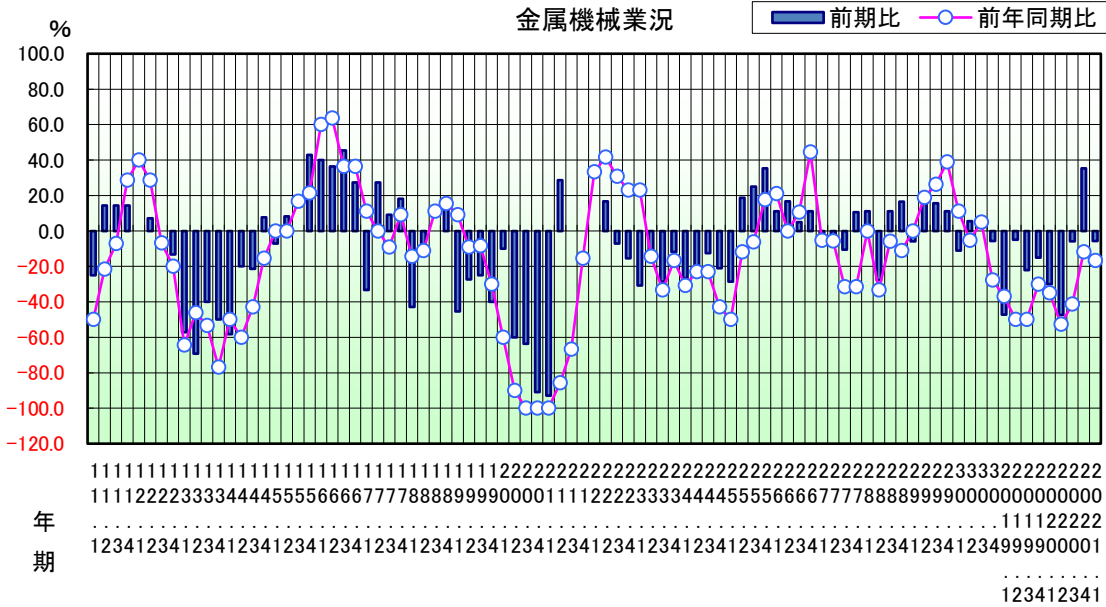
(2) (1)で1~3と答えた方にお伺いします。具体的にどのような対応を行っていますか。

A 「IT人材の確保、スマートファクトリー化。」「推進組織を新たに設置。」「生産管理のデータ化、生産計画、納期等の管理をしている。生産現場の映像保存。品質管理。技術継承。現場改善。」「廃棄物削減、生産性向上等々によるCO2削減活動。クラウド化、データ蓄積ナレッジ化、等々。」「再生可能エネルギー分野への事業転換模索。自家消費型太陽光発電設置予定。」「省エネ活動。COOL CHOICE。」等。

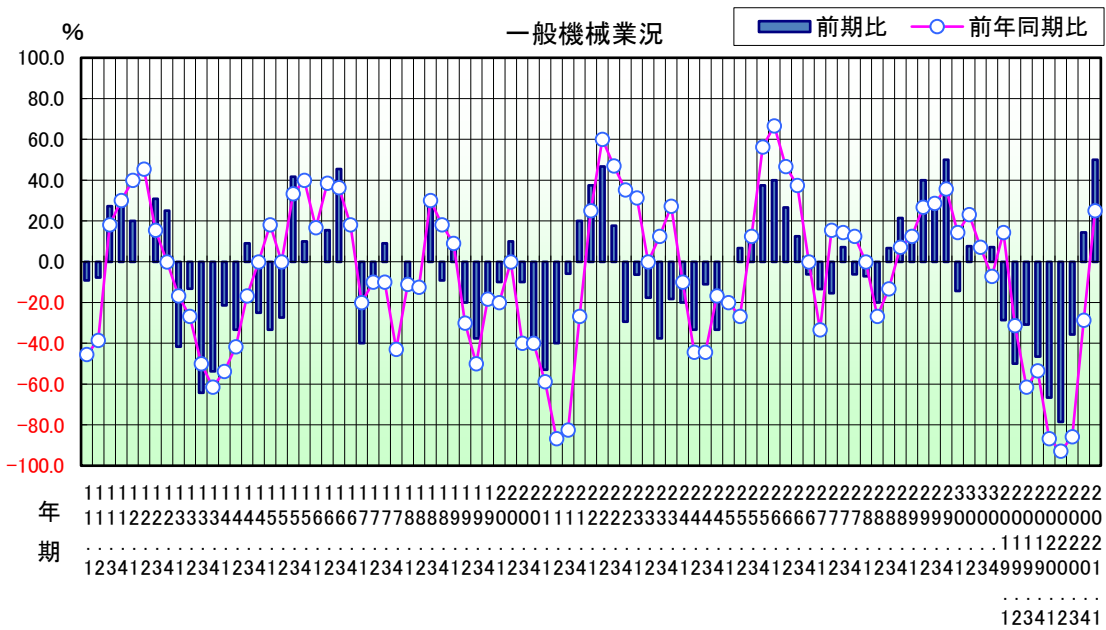
Q12 具体的な問題について

A 「新型コロナウイルスの影響に左右されそうです。」「新規事業を立ち上げたいが、若いエンジニア不足で対応が難しい。」「SDGs、カーボンニュートラルなど対応できていない課題が多い。」「一部、原材料の入手納期遅れが生じている。」「どうやって受注量を増やすか。(営業強化、再構築等)材料価格高騰分を製品価格に反映してもらえない。」「新しい企画、新製品の開発ができない。」「コロナの影響で未だに世の中が不安定なのか受注にも表れている。鉄材の高騰で金属全体の単価が上がっている。」「交通安全に再び心を入れて取り組んでいる。」「建物の老朽化。」「人員不足。派遣社員が集まらず、現場では残業対応が続く。」「仕事確保と技術の継承が今後も課題。」「こんなに長くコロナの影響が続くとはだれも想像できなかったと思いますが、昨年この時期と同じような手厚い政策を希望します。」「集中した受注と納期短縮が今後の課題、分散化必要。」等。

金屬機械業況



一般機械業況



電気機械業況

